たちにはすでに川に入る体力はもうありませんでした。前日のコテージ泊で数時間おきに街灯のルッキングを行い、クワガタを捕まえていた後輩もいたようです。見かねた顧問により 1 地点目は希望者のみとなり、数人で採集を行いました。琵琶湖固有の肉食魚ハスが採れたほか、カワっぽいヨシノボリが採集されましたが、観察ケースを割ってしまっていたため同定できませんでした。残念。その後移動し、以前関西生物部交流会で東大寺学園高校、膳所高校さんなどに案内していただいた安曇川周辺で観測を行いました。ウキゴリ、オオシマドジョウ、オウミヨシノボリ、ウツセミカジカ、ヌマチチブ、スナヤツメなどが採集できましたが、肝心のゼゼラが採れず個人的に少しがっかりしました。しかし、住吉川で採れない種がたくさん採れたのでまあ及第点あるのではないでしょうか。駐車できる場所すらないようなところだったのですが、無茶を聞いてくれた顧問とバスの運転手さんに感謝しかありません。大急ぎで撤収した後数時間バスに揺られ、無事に学校へ到着。日差しが強い日もありしんどい行程でしたがお疲れさまでした。

(文責:K.M.)(写真左:ゼゼラ　右:ウツセミカジカ)

6. さいごに

特に事故もなく、参加した部員全員にとって何らかの実りを得られた合宿になったと思います。各地でお世話になった沢山の方々、4 日間お世話になったバスの運転手さん、そしてご子息を預けてくださった保護者の皆様、計画段階から沢山ご指導を賜った顧問の先生に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。(文責:大島楽翔)

国際生物学オリンピック 2019 ハンガリー大会 体験記
IBO2019 in Hungary, Szeged

高校 3 年生　長谷川　修造

1. はじめに

こんにちは。高校 3 年生の長谷川です。今回は僕の参加した第 30 回国際生物学オリンピック ハンガリー大会の体験記を書かせていただきました。~~一緒にハンガリーに行った椋木さんが生徒会誌に挙げた記事の剽窃っぽい所もありますが~~(許可していただきました)、この記事を読んだ方が少しでも生オリに興味をもってくださったら幸いです。

生物学オリンピックについてよく知らないという方もいらっしゃると思うので、次の項から軽く説明しておきます。体験記だけ読みたい方は飛ばしてもらってもかまいません。また対策については記事の最後で紹介します。

2. 日本生物学オリンピック

日本生物学オリンピックは、主に中高生を対象とした生物学の知識や技能を競い合う全国規模の大会で、国際大会に派遣する日本代表の選考も兼ねています。参加する場合まず初めに予選を受けることになります。試験会場は日本全国どこでも受験できるように用意されていて、灘校でも受けることができます。参加費は勿論、無料。日程は 7 月の中旬の期末試験が終わった直後か約 1 週間後です。参加人数は年々増え続けており、僕の受けた年は 4000 人を超える参加人数だったそうです。その中から本選に通過できるのはわずか 80 名。倍率 50 倍ほどの狭き門と思いきや、学校や部活で強制的に受けさせられている人が大きな割合を占めているのであまり心配することはありません(と椋木さんはおっしゃっています)。後述しますが本選におけるメダルの色には予選の結果が大いに関わってくるので、本気でメダルを狙いにいく人は予選から高得点を取る必要があります。

予選の形式は 20 問程度の考察問題や計算問題を 90 分で解く、6~12 択くらいのマークシート式です。年によって難易度は異なりますが高校 2 年生以下なら 75~80 点ほど取れていれば予選突破は安泰だと言われています。ただ高校 2 年生以下より高校 3 年生・既卒生の方が予選突破のためのボーダーが高いので注意が必要です。考察問題なので知識はそれほどなくても得点できますが、高得点のためには緻密な知識が必要でしょう。

予選を突破すると本選への参加資格を得ることができます。昔は筑波大学と広島大学で交互に行われていたのですが、なにぶん準備が大変なので両大学が音を上げ始め、最近では東京大学でも行われたりするなどばらばらになっています。今年は広島大学の予定です。参加費・宿泊費は必要ありませんが交通費のみ支払う必要があります。会場の遠方に住んでいる人には一部補助金が出ることもあります。日程は 8 月中旬の 4 日間、泊まり込みで行われます。日程には最先端研究を体験できるツアーや生物学的に貴重な資料を見学できるツアーなどが組み込まれていることが多く、自分の興味のある分野の研究室を選択してお話を聞きに行けることもあります。テストが終わったからと言って徹夜すると研究室見学中に寝かねないので気を付けましょう。試験内容は基本的に全 4 問の実験試験で、それぞれ 1 問 90 分ほどとなっています。ただ去年は 3 問だったそうなので今後どうなるかはわかりません。予選と本選の成績の総合評価で、本選参加者 80 名の内、上位 10 名に金メダルが、続く 10 名に銀メダルが、続く 20 名に銅メダルが授与されます。さらに高校 2 年生以下の中で上位 15 人は日本代表候補に選ばれ、今後強化合宿などを経て代表選抜試験に臨むことになります。

代表候補には 1 冊 15000 円ほどするキャンベル生物学という生物学の教科書が無償で提供され、これを熟読することで、代表選抜試験の勉強をします。ただ、この教科書は 1600 ページにわたって文字と画像がぎっしりと詰まっており、生物学の多岐にわたる情報をほぼ網羅しているので、1 周読み終えるのにも相当の時間を要します。代表候補はこれを死に物狂いで何周も読んでやっと代表になることができます。他にも、クリスマス頃には東京で 3 日間の冬季セミナーがあり、実験の実習や統計学講義を受けることができます。この際の費用は完全にタダです。

そして 3 月下旬に代表選抜試験が行われます。代表選抜試験は午前の記述式試験、午後の選択式試験の 2 つに分かれていて、キャンベル生物学をいかに読み込んだかを問われる試験と言っていいでしょう。記述式試験では生物学についての深い理解、選択式試験では国際大会を想定した問題への解答スピードと正確性を試されます。選択式の試験は公表されていないため多くを語ることはできませんが、かなり難しいです。適当に書いても点が変わらない気さえしてきます。この試験において好成績を残した上位 4 名のみが、日本代表としてその年の夏に開催される国際生物学オリンピックに参加できるようになります。

3. 特別教育

前述の過程を経て代表に選ばれた 4 人と次点に選ばれた二人は、東京で 1 月頃に 1 回行われる強化合宿と、家や学校に近い大学での個別教育を受けることになります。僕と椋木さんは甲南大学で個別教育を受けましたが、何を教えてくださるかはかなり我々の希望に沿ってくださるので個別教育でどれだけの経験を得られるかは受ける側の熱量にかかっているといっても過言ではありません。僕たちは週 3 のペースで甲南大学に通いましたがそれ以上でも大丈夫です。というか大学側の都合が合うのであれば毎日でも行った方がいいと思います。甲南大学では日下部先生はじめたくさんの方がお忙しい中、たくさんの時間を割いていただき得難い体験をすることができました。誌面の都合上細かい実習の内容については省きますが高校 2 年生以下の方は代表になってぜひ自分の目で確かめてみてください。また、東京での強化合宿ではかなり国際生物学オリンピックの試験を意識した対策や講義を重ねることになります。一日中なのでしんどいかもしれませんが、内容はかなり面白いものだったと思います。

4. 国際生物学オリンピック

個別教育や強化合宿といった経験を積み、4 人の代表は 7 月の国際生物学オリンピックに参加します。国際大会へは代表に Jury と呼ばれる引率者団の先生方が同行し、英語で発表される試験を日本語に翻訳するなど代表を補助してくださります。今年はなんと日本の長崎で国際大会が開催される……はずだったのですが新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で中止が決定されました。4/8 現在オンラインでの代替案を検討しているようですが、海外の人達と集まるのが醍醐味の一つなので残念です。大変な情勢の中で代替案を検討してくださるだけでもありがたいのですが……。以後は 2021 年度がポルトガル、2022 年度がアルメニア……といった感じです。国際大会は約 1 週間にわたって開催されますが、その間試験はわずか 2 日のみ‼で、他の日は観光や交流イベントが盛りだくさんとなっています。参加国は 2019 年度で 75 カ国ほど、参加者は 300 名ほどでした。メダルは上位 10%に金メダルが、次の 20%に銀メダルが、次の 30%に銅メダルが授与されます。総合すると参加者の 6 割がメダルを獲得できるという大盤振る舞い。灘校はたくさんの代表を輩出しているのにも関わらず未だに金メダルを獲得した人はいないので、国際大会に出場したいと思っている方は是非金メダルを目指して頑張ってください。

5. メンバー紹介(五十音順)

(1) 小野俊祐　鳥取県・鳥取城西高等学校 3 年

生粋の鳥取ボーイ。得意なことは勉強、Twitter、地学、英語。幼少期を英国で過ごしたそう。代表に選ばれてからの強化合宿で東京に行った帰りに一緒にカラオケに行ったのですが、僕らの前で日本の軍歌を熱唱してくれました。その姿は圧巻でした。鳥取では軍歌が流行っているのでしょうか?隣国の文化はよくわかりません。4 人の中で唯一共学に通っているけど、あまり女子とは喋らないらしいそうです。いや、喋れよ、せっかく共学なんだから(椋木さん談)。

(2) 長谷川修造　兵庫県 灘高等学校 2 年

73 回生。生物研究部・ソフトボール同好会所属。自分の紹介って何書けばいいんでしょう。人見知りです。個性の塊みたいな部員の中ではかなり常識人寄りだと思います。

(3) 星野敬太　神奈川県・栄光学園高等学校 2 年。

代表強化合宿の夜に「ワンナイト人狼」をやった際、あまりの嘘の上手さと勝率の高さから代表の中ではサイコパスキャラが定着してしまいましたが、至って普通のサイコパスです。ロングスリーパーで 10 時頃には寝てしまい、何をしても起きません。サイコパスはやっぱよく寝るんやな。高 2 ながら身長が 4 人の中で最も高いのも頷けます。彼とは 2 年前の本選のときから一緒だったはずなのですが全然気づきませんでした。おそらくめちゃくちゃ賢い。

(4) 椋木優斗　兵庫県 灘高等学校 3 年

いろいろお世話になった先輩。生物研究部どころか今は生物選択ですらないのに日本代表をやっていた人。中学の頃から生物に興味はあったがどうやって勉強したらいいかわからず、高 1 で生物の教科書をもらって初めて勉強しはじめ、独学で 3 ヶ月勉強し国内予選を通過したらしい。2 年連続で一緒に本選に行ってまあまあ仲良くなったような気がします。ただ個別教育で連日顔を合わせていたので倦怠期に突入しかけていました。塾であったとき「もうええわ」って言われていたような気がします。

~~ここ最近代表に 1 人は女子が含まれていたのに、今年はいなくて残念。~~

6. 大会参加記

ここからは本題の大会参加記を書いていきます。今回の旅は次のような感じ。

0 日目：結団式

1 日目：日本出国・ハンガリー入国

2日目：ブダペスト観光・開会式
3日目：レクリエーション・試験器具確認・エクスカーション
4日目：実験試験
5日目：エクスカーション
6日目：理論試験
7日目：エクスカーション
8日目：閉会式
9日目：ハンガリー出国・日本帰国・表敬訪問
本当に遊びばっかでした。

・ 0日目

結団式に出席するため期末考査最終日の試験後にそのまま東京へ向かいました。結団式は皇居の近くの科学技術館というところで行われました。着いてみると代表の保護者や Jury の方の他に本校の生物部顧問の姿が。例年は来られていないのですが今年は二人もお世話になるということでいらっしゃったそうです。

日本らしく予定時刻ちょうどに式は始まりました(これ本当に大事)。お偉いさんの少々退屈な話が延々と続くかと思いきや、式は意外とスムーズに進行していきました。一応代表の体調等に配慮しているそうです。OB・OG からの激励は灘の先輩や本選で見た顔も多く、10年間非公式応援団長を務めているという方からの熱いエールもいただきました。さらにここで名刺や開会式等で着る法被(はっぴ)、T シャツなどを受け取りました。式の終盤、突然日本代表として挨拶をお願いしますと言われて、何も考えていなかった僕たちはしどろもどろになりながらも「代表になった以上、なれなかった人の思いも背負ってできるだけ良い色のメダルを持って帰れるよう頑張ります」とかありきたりなことを言ってその場を凌ぎました。

式後はごく短い間 OB・OG と交流した後、成田空港まで移動して夕食を食べました。これまでの合宿では食事代が 1500 円を超えてはいけませんでしたが、今回のみ無制限に頼んでいいと言われ、高めの美味しい定食とデザートを頼みました。国費で食べる飯はうまい。かみしめると税金の味がしました。

その後ホテルに移動。この日は成田空港近くのホテルに前泊し、翌日飛行機に乗ります。引率の先生の話によると、どうやら昨年よりホテルの質が大幅に劣化した模様です。次年度日本開催の影響がここにも。

・1日目

ホテルからのバスが 1 時間に 1 本のみで、タクシー移動の許可も出なかったため、Jury の先生方との十分に余裕を持った集合時間のさらに 1 時間ほど前に空港に到着しました。ところが全員が集まった後、なぜか発券機でエラーが生じて、代表 4 人中 3 人はカウンターの長い列に並ぶことに。大幅なタイムロスに焦らされました。その後も Jury の大学生が飛行機に乗り遅れかけるなど小規模(?)なトラブルはありつつも、何とか無事に出発。ついにハンガリーへの長い旅が始まりました。

往路はモスクワでの 1 回の乗り換えを含む計 12 時間ほどのフライトで、成田空港からモスクワにある空港までが約 10 時間、そこからブダペスト空港まで約 2 時間かかります。今回利用したロシアの某航空会社アエ□フ□ートは、今でこそ一流航空会社の仲間入りを果たしているものの、昔はよく飛行機が落ちていたことで有名らしく、無事にハンガリーまでたどり着けるかが今大会の最大の難所と僕たちには思われました。ただ、予想に反し機内は快適で過ごしやすかったです。各席にはモニターが付いており、みんなで超難しいテニスゲームをしてストレスを溜めたり映画を見たりしました。テニスゲームはコントローラーと画面のラグが大きくて操作しているキャラが全然思った方向へ動かず、さらには途中で一方向にしか動かなくなるという酷いものでした。椋木さんは飽きて早々に映画鑑賞に入りましたが、星野さんは暇だったのか 3 時間ほど練習しており、後で観戦していたら結構上手くなっていたそうです。多分僕は寝ていました。ちなみに椋木さんが観た映画は「キャプテン・マーベル」と「ボヘミアン・ラプソディ」。前者は僕の好きなマーベル系映画の中で見逃していたので、後者は映画館で一度観ましたがめちゃ感動したのでもう一度観ました。超おすすめです(椋木さん談)。日本発ということもあり機内食は美味しかったです。寿司が入っていたのはびっくり。サカナの醤油入れがあったので、外国人ウケが良いと思ってカバンに入れました。結局渡さなかったのですが(椋木さん談)。ここまでいい点を挙げてきましたが、アエ□フ□ートはアエ□フ□ートなので座席のポケットにはガムがつけられており iPad はべちゃべちゃになってしまいました。

モスクワの空港では 15-20 分ほど入り組んだ道を歩かされました。10 時間座っていたのに散々歩かされてクタクタ。モスクワと日本の時差は約 6 時間で、日本時間では到着時すでに真夜中になっており、弱い眠気に襲われていました。ただ、ロシアでは不用意に入国するとどこかに連れていかれてしまうので絶対に入国しないように、と出発前に言われて

いたので少々緊張しながら歩き、なんとか無事搭乗ゲートまでたどり着けました。

そこから 2、3 時間のフライトを経てブダペストに着きました。入国審査では英語でいくつか問答があるだろうと思って緊張していましたが、審査官は隣の人と喋りながらハンコをぼんぼん押していたので一瞬でした。これでいいのかハンガリー……。空港についてからはスーパーで軽く買い物してからホテルへ向かいました。スーパーではイケてるサングラスをゲット。今でも愛用しています。

ホテルへ向かう途中、バスからドナウ川やハンガリーの国会議事堂が見えました。建物の多くがライトアップされていてとても美しい。ブダペストは夜景が信じられないくらい綺麗なので、ブダペストに行くことがあったら是非夜に散歩してみてください。初日はなんと五つ星ホテルで、部屋は広くベッドもふかふかでしたが、日本時間で朝 6 時ごろに突入していたので雰囲気を楽しむ余裕もなくすぐベッドに倒れこんで寝てしまいました。

・ 2 日目

10 時に起きてフロント前のソファで寝ていたため、先生が前日に買われたベリーの味以外は思い出せないので椋木さんの文章に移ります。

8 時に目が覚めて、ベッドでごろごろして起き始めたのは 9 時。同室の星野さんは心底眠そう。朝食はおなじみのビュッフェ形式でしたが、全ての料理が想像をはるかに超えて美味しかったです。さすが五つ星ホテル。特にチーズ、ハム、ソーセージ、パンとマフィンが美味しかった。マフィンの甘さ加減と食感が完璧で、人生でこれ以上のマフィンを食べることは今後ないとまで思いました。10 時ごろから小野さん他 Jury の方々と一緒に観光に向かいました。長谷川と星野さんはホテルでごろごろコースを選択し、本当にロビーのソファでごろ寝をしていたそうです。僕たちはブダペストの有名な観光名所であるマーチャーシュ教会の大聖堂にまず赴きました。今回は日本人でガイドの資格を持つ方が道中ガイドをしてくださったので、様々な情報を得ることができました。たとえば、ほとんどの聖堂は上から見ると屋根の峰がだいたい十字架形をしていて、交差する部分には主祭壇があるんだとか。そしてその十字架の短い部分は東を指しているそうです。勉強になりました。そのあとはドナウ川の方に向かいチェーンブリッジと呼ばれる橋を渡りました。この橋は自転車のチェーンを大きくしたようなもので橋を吊っているのでそう呼ばれているそうで、橋の上からの川やその脇の建物の眺めはとても綺

麗でした。この日歩いて感じたのは、ハンガリーは日差しが強くても湿度が低いので日本より圧倒的に過ごしやすいということです。風が吹くたびに涼しくて気持ちいいので、観光のため歩いている間も快適でした。昼飯はケバブサンドとコーラ。ハンガリーに来てトルコ料理を食べる先生方のセンス……面白いです。その後長谷川たちホテル待機班と合流してバス到着まで 1 時間ほど待ちの時間。今思うとこういう待ち時間に英語の練習した方が良かったかもしれない。(ここまで椋木さん談)

バスを待っている間にパン屋で朝ご飯を買ったのですが 500 フォリント(ハンガリーの通貨)で少し足りず、1000 フォリント出したところお釣りで 500 フォリントとちょっと返ってきました。意味分かんねぇ。バスでブダペストから大会の開催されるセゲドまで 2 時間半ほどかけて移動します。インドネシア代表などと一緒のバスでしたが、このときはまだビビって他国の代表とは喋れませんでした。結局時差ボケの疲れもあり全員爆睡していました。

そしてバスは 2 時間遅れで到着。その後大会中、選手たちのサポートをしてくださるガイドさんと顔合わせをしました。ガイドさんは各国に一人ずつおり日本のガイドはギリシャの方で、とてもいい人でした。夕食の時間は 10 分ほどしかありませんでした。ほとんど何も食べないまま、開会式のため少し移動してオペラハウスに入りました。内装はとても豪奢な造りで、椋木さんは憧れの本場のオペラハウスに入ることができ感動していました。

開会式は唐突に、劇仕立てのハンガリーの伝統舞踊から始まりました。男性は体の各部(手、膝、かかとなど)を叩きつつ飛んだり跳ねたりして踊り、女性は主に長めのスカートを着て回転しながら踊っていました。面白かったのですが、無限に同じ踊りが続くのとダンサーが踊っている間ずっと奇声を発していたのにはちょっと疲れてしまいました。その後セゲド市長や市内の大学の学長、IBO 議長をされている松田先生や Jury の本田先生のスピーチがありましたが、半分くらいしか聞き取れませんでした。続いて各国の代表紹介に入り、それぞれの代表チームがステージに上がって手を振るくらいの挨拶をしました。例年開会式はどこも控えめだそうで、たしかに手を振るだけの国もたくさんありましたが、僕たちの直前のイタリア代表はでっかいピザの風船を持っていました。イタリア人には陽気なイメージがあったので、僕たちの前に何をしでかすのかと気が気ではありませんでしたが結局持って壇上に上がっただけでした。僕たち日本代表は法被(はっぴ)を着て抜刀ポーズを披露。これ

は、世界陸上リレーでの日本代表のパフォーマンス~~をパクった~~に着想を得たもので、他の国が大人しかったのもあって割とウケが良く、国際的にスベらなくてよかったとホッとしました。他の国だとデンマーク代表がバク宙していたりアメリカ代表が逆立ちで歩いたりしていたので代表を目指す皆さんはぜひ練習しておいて下さい。

パフォーマンスが終わって一息ついて席に座っていると、急に変なおじさんが来て日本代表から二人、小野さんと椋木さんが壇上に上がらされました。どうやら次年度開催国が何か宣誓をする予定だったようなのですが、連絡が行き届いておらず僕たちは何が起きているのかよくわからないまま壇上に上がり、結局何もせずに降りました。しかし何故か会場は拍手で包まれ、よくわからないけどめちゃくちゃ恥ずかしい思いをしました。

開会式が終わると Jury のみなさんとはお別れです。別々のホテルに泊まり、試験終了まで会うことはできません。皆さんはこれから 3 日間に渡って徹夜で僕たちの解く問題の翻訳をしてくれます。問題を自国の参加者に漏らさないよう一切の接触を絶たれるのです。先生方からの応援メッセージを頂いて、それぞれのホテルに帰りました。

・ 3 日目

朝 7 時ごろ起床。時差ボケはさほど気にならなくなってきました。小野さんと会場で朝食を食べていると別室の二人も来ました。美味しい朝食に舌鼓を打っていると中国の代表が話しかけてきてくれました。なんでも「進撃の巨人」が好きだそうで、椋木さんや小野さんと漫画談義をしていました。さすが日本の漫画文化ですね。代表 4 人ともとても積極的に話しかけてきてくれた上、拙い英語でも聞いてくれるので、リラックスして話せました。というか、IBO ではどこの国の人もしっかり拙い英語を聞いてくれました。こちらから名刺を渡すと、お返しに高級そうなしおりをくれました。金属でできた金色のしおりで、飾りもおしゃれ。名刺と交換するにはもったいない代物だったので後で何か違うお土産を渡すよと言って別れました。

この日はレクリエーションやセゲド観光が予定されていましたが、早速開始が 1 時間半遅れるというグダグダっぷり。部屋でポーカーや配られたヨーヨーなどをしつつ待ちました。

レクリエーションは Safety Lectures というもので、大会期間中の注意事項の連絡と、試験で解答用紙に貼るバーコードの配布が行われました。バーコードはこの時ランダムに選び、採点終了まで誰がどのバーコ

ードに対応するかは非公開にされるので、採点が公平になるというシステムらしいです。良く考えられています。ちなみに点呼のとき日本語では「はい」って言いますが英語では「Here」っていうんですね。この時初めて知りました。

それが終わると隣の部屋に移動し、次の日の実験試験で使う器具を事前に触りました。光学顕微鏡、高感度温度計、関数電卓、電気泳動装置などは予想の範疇でしたが、意外なものとしては高温ドライヤー(350℃以上)、電圧測定器などがありました。とりあえず一通り器具を触って、余った時間で国際交流。ブラジル代表などと話し、うちわを配りました。ブラジル代表の一人と仲良くなったのですが、彼は椋木さんの父親に見た目がとても似ていて、この後顔を見るたびに椋木さんはドキッとしていたそうです。彼とは今でも仲が良く連絡を取り合っています。基本的に海外の方は LINE などをしていないので連絡先を交換したいなら Facebook か Instagram のアカウントを入れておいた方がいいでしょう。

午後はセゲド観光に繰り出しました。3ヵ国ほどで1チームとなって行動し、日本はイタリア・香港と同じチームでした。余談ですが、今回の IBO では中国、香港、台湾がそれぞれ「China」「Hong kong, China」「Chinese Taipei」として別のチームで参加していました。開会式では香港、台湾の旗(?)は IBO の旗になっており複雑な事情が垣間見られて興味深かったです(椋木さん談)。香港の代表は水鉄砲から水が漏れた時も「Because this is made in China」と言っており面白かったです。

セゲド観光では出発時になんと1個ずつ水鉄砲が配給され、道中では頻繁に打ち合いになりました。名前を呼んで振り向いたときに打つ日本の伝統も、海外の人にはバカ受けでした。後で聞いた話では、これは暑さ対策のために提案されたものらしく、ほとんどが高校生以上の参加者たちも無邪気に打ち合ってはしゃいでいたので、大人たちもよく考えているなぁと素直に感心してしまいました。日本でやったら蒸し暑くてかなわないでしょうが、ハンガリーは乾燥していたのですぐに乾いて涼しく、とても気持ちがよかったです。そんな感じでじゃれあいつつ、チームでクイズラリーに答えるためセゲドを廻りました。大聖堂や偉人の像などを見物し、綺麗な庭園ではハーブティーを振る舞ってもらいました。他にもキリスト教の影響の色濃い絵画展を覗くなど、楽しい時間を過ごしました。クイズに全部答えてホテルに戻ると、電子ピアノの前に座ったおじさんのもとに案内されました。実はクイズラリーの答えは四択のアルファベットの選択肢から回答するものだったのですが、ABCD では

なく ADFG など変な選択肢でした。ここでは C→ド、D→レのような感じで解答の記号を音階に直して演奏してくれて、全て合っているとハンガリーの民謡のメロディになっている、という仕掛けのようでした。ですが、答えはいくつか間違っていたようでへんてこなメロディになってしまい、爆笑でした。

夕食前に香港代表たちと人狼ゲーム(彼らは”マフィアゲーム”と呼ぶ)をして遊びました。英語でやるのは結構難しかったですが、彼らが非常に達者な英語でサポートしてくれたのですごく楽しめました。

夕食後は椋木さんと参加者が集まって、わざわざ用意されたプレイルームに行きました。ボードゲームなどがいろいろ置いてある中、僕たちはツイスターに目をつけてそこにいた人を誘って遊びました。遊んでいるとすぐに人が集まってきて盛り上がりました。こんなに盛り上がるツイスターは初めて。会場では以前話した中国代表やドイツ、スイスの代表とも話しました。ドイツ代表のイケメン君は変なシリアル?を食べていてペットフードみたいなことを言われていました。やはりヨーロッパ圏の人々と英語で会話するのは難しく、相手の話についていくので精一杯でした。でも聞き返しても何度も言い直してくれたり…とにかく優しかったです。本当はもっと遊んでいたかったのですが、翌日の試験に備えて早めに撤収。11 時就寝。

・ 4 日目

朝 7 時前にガイドさんの絶え間ない高速ノックで強制的に起こされました。7 時 40 分に集合、出発すると伝えられ、急いで朝食を済ませて準備しバスに乗り込みました。いよいよ試験が始まる、とバスの中には緊張感が漂っていたわけでもない気がします。小野さんはもらった水筒にモンスターエナジーを入れてました。

試験会場に到着すると各国の代表は 4 グループにそれぞれ一人ずつ分けられ、この日、一日は別行動をとることになりました。試験の成功をお互いに祈りつつそれぞれのグループに分かれました。9 時に試験が始まる予定だったので指示に従い控室に入ったのですが、なかなか試験が始まりませんでした。待っている間、控室でピアノを弾いている人などもいましたが、僕はインドや香港の代表などと話していました。普通に領土問題や香港のテロについて話すので意識高すぎやろとずっと思っていました。灘校生と違って高尚な会話でした。この後もいろいろありましたがなんとか一つ目の試験を終えました。昼食には謎のベリーが詰まった味濃いめのパンと青リンゴが山のように積まれていて、僕はリンゴ

をメインに食べました。そのあとも控室にいる時間がやたらと長くいろんな人と話していました。中でもスリランカの代表が「君の名は。」や「おしん」、ジブリ作品のことを知っていて驚きました。「ハウルの動く城」すら見ていない僕は彼に教えられる立場だったので少し情けなかったです。そのあとも 90 分の試験と、それと同じくらい長い待ち時間を繰り返し、試験が全て終了したころには真夜中になっていました。そこでやっと他の 3 人とガイドさんと再会できました。全員一日中英語を話したストレスと実験の壊滅ぶりに精神に異常をきたしており、特に椋木さんはギャグみたいに奇声を発したり急に落ち込んだりしていました。試験が終わってから椋木さんと同じグループで試験を受けていた南アフリカの人が日本語で話しかけてくれました。彼女は日本に住んでいたことがあるらしく、英語も日本語も堪能でそれ以降の英語でのコミュニケーションをかなり助けてくれました。

以下実験試験の内容を書きたかったのですが、IBO の開催から数年間は試験内容が公表されておらず、申し訳ないのですが試験の内容について詳細には記せません。

1 つ目の試験の分野は分子生物学。甲南大学での実習時にあれだけ問題全体に目を通してから実験を始めろと言われたのに、適当に順番通りに問題を進めていってしまい、最後の電気泳動には取り掛かることすらできませんでした。これは痛恨のミスです。もう心が折れそうになりました。

2 つ目の試験の分野は生化学。この時の絶望感は言葉では言い表せません。ちなみにスケッチも後で Jury の方に面白かったよと言われました……。

3 つ目の試験の分野は動物・植物解剖学。激ムズ問題が出て、為す術なく壊滅。

4 つ目の試験の分野は神経生物学とバイオインフォマティクス(生物情報学)でした。一部は事前の予告通り Geneious というソフトウェアを利用して行われました。

結論から言うと実験試験の結果は散々でした。点数を見たい方は IBO の HP から見ることができます。見てもいいですがまあ酷いことになっています。

・ 5 日目

朝 7 時 20 分起床。椋木さんは過酷な実験試験と英語環境のせいで軽くホームシックになり、めちゃくちゃ落ち込んでいました。8 時 45 分か

らバスに乗って移動し始めました。これがほぼ唯一のしっかり起きていたバス移動でしたが道路わきには美しいひまわり畑や牧草地が広がっていました。目的地はハンガリーで最も世界遺産の密集する公園で、広大な敷地に歴史ある建物が並ぶ素晴らしいところでした。入園してまずは資料館に行き、ヨーロッパの文化とアジアやアラブの文化が絶妙に混ぜ合わさっている遺物の数々を見て、東欧の雰囲気を楽しみました。古い刀や衣装など興味深い物品を見て回り、その後シアタールームで公園内の建物について説明したビデオを見ました。ただ、ハンガリー語でよくわからない上に微妙なクオリティの 3D 映像がツボにはまって、気になりすぎて全然頭に入ってきませんでした。後で思い出すとあの時はだいぶ疲れていたのかもしれません(椋木さん談)。

昼食を取った後はトカゲを捕まえたり各国に一つ配られたトランプでガイドさんとダウトをしたり、同じく配られたボールでキャッチボールをしたりしていました。他の日でも起こったのですが、キャッチボールをしていると必ず他国の代表が寄ってきます。なんとか終わりにした後向かったのは、ハリーポッターの炎のゴブレット(知らんけど)に出てくる巨大迷路ばりの植物でできた迷路で、道の分岐にクイズがあるタイプのものでした。そのクイズは 10 問ほどあって、ハンガリーの偉人や地理・気候などに関連するものでどれも難しく、途中で会ったルーマニアやネパールの代表たちと協力して進んで行きました。いくつか間違えながらやっとゴールについた頃には、みんな汗だくで疲れ切っていました。翌日も試験だというのに何をやっているのか……。ただゴールは地上 5 メートルくらいの展望台のようになっていて風が涼しく、迷路全体を見渡せてとても良い景色でした。そんなこんなしているうちに帰る時間になってしまい、名残惜しかったですが公園を後にしました。

実はこの日は椋木さんの誕生日で日本からプレゼントとしてぬいぐるみとポンチョを持ってきており、エクスカーションで心の傷をいやした椋木さんにサプライズをしようと前々から決めていました。ガイドさんたちにサプライズをすることを伝え時間になった時に一斉に Happy Birtyday to You を歌いました。dear～のところは案の定バラバラでしたが、伝えてないはずの人も歌ってくれてサプライズ企画した側なのにとても嬉しかったです。バレバレだったらしいですがまあ大丈夫だったでしょう。

夕食後はホテルにあったボウリング場でボウリングをやろうと思っていたのですが、次の日も試験なのでやめておくことにしました。実験試験の失敗を取り返す決心を胸に就寝。

・ 6日目

朝7時起床。

理論試験の日。最後の闘いの日です。

試験は午前午後3時間ずつの計6時間。例年のようにそれぞれ4問×50セットくらいの〇×問題が出ると思っていたのですが、今年は……(詳しくは言えません)。こんな時のためにも試験全体に目を通してから解き始めることは重要ですね。僕はできなかったけど。昼食で他の3人と会えましたが、全員やばいやばいって言っていました。昼飯はパンと青りんごとチョコでした。発注ミスかよっていうくらい毎回青りんごが出ましたが、やっぱり日本のリンゴの方が別格に美味しいです。ずっと喋ってまあ気がほぐれたのかな?午後の試験は午前に比べて時間配分が上手くいきました。試験が全部終わった時のみんなの顔はとても晴れ晴れとしていました。やっぱ終わり良ければ全て良しやで。

この後初日から別行動だったJuryの皆さんに会えるReunion Partyがありました。彼らは3日間ほど本当にほぼ無睡で翻訳をしてくれていて、とても疲れていました。実際もっとも大変なのは参加者ではなくJuryだと思います。久しぶりに会ったからといって熱い抱擁を交わした……わけではないですが、僕たちのために命を削ってくださっているのにはただただ感謝しかありません。ただ、一つ重大な翻訳ミス(それか元の問題の間違い?)があったと知るとめちゃくちゃ悔しがられていたので実験試験の出来を考えて申し訳なくなりました。それから、Juryの方々がさらに大量のうちわを持ってきた(来る途中でロスバゲしていた)のでパーティ会場で配ることに。いろんな国の代表に渡してたくさんのお返しの品をもらいました。どこの国の代表も英語が上手く、自分の英語力のなさを改めて痛感しました。

そうこうしている内にダンスパーティが始まりました。初めはみんなで手を繋いで輪になって、ハンガリーの伝統舞踊的な踊りをしていました。これも開会式と同じで無限に同じ踊りが続くのでめちゃくちゃ疲れます。途中からプロのDJが来ておそらく世界中に知れ渡っていると思われる曲をかけ始め、会場は大盛り上がり。僕と椋木さんも踊り狂っていました。かかっていた中で僕が知っていた曲は、

・justin Bieber – Sorry

・PSY – GANGNAM STYLE(강남스타일)
・O-Zone – Ma Ya Hi
・Rihanna – Work ft.Drake
・~~中島みゆき　荒野より~~
くらいでしたが。会場が熱気に包まれる中みんながうちわを手に踊ってくれていたのには感動しました。10 時くらいになってやっとパーティはお開きになりました。日本でいう閉店メロディのような感じでエド・シーランの Perfect が流れていました。会場には遊具のある庭が隣接しておりクールダウンのためにそこで遊んでいたのですが、日本語を話すことができる中国の代表に無理やり絶叫系の遊具に乗せられたりしました。彼はデビルマンの歌や米津玄師のフラミンゴを知っているのに「やめて」と言っても「ニホンゴ、ワカリマセン」とか言って止めてくれませんでした。ほんまやばかったであいつ。

ホテルに帰るとスマホが返却されました。3 日間 IT 機器フリー生活はそれほど苦痛でもなく、いい毒抜きになったと思います。部屋に帰ってもテンションが下がらず、好きな曲をかけながら 4 人でずっと喋っていました。星野さんとは中島みゆきの話で大盛り上がりでした。

就寝 2 時半。

・ 7 日目

この日は観光のためブダペストに行きました。2 時間半ほどバスに乗り、降りた目の前には超でかい塔と青銅像があって、手に乗せているように見える写真を撮るなどしました。その後、ガイドブックを渡されガイドさんと国ごとの自由行動に移りました。メルヘンチックな森の古城のような綺麗な写真があったので、その城に行ってみることになりました。実際には全然森の中じゃなくて少々がっかりしましたが、それっぽい写真は撮ることができました。その近くの大きな公園の木陰で昼食をとり、またキャッチボールをしているとどんどん人が集まってきて、1 時間半ほどそこで使ってしまいました。そのまま次はバスに乗って僕にとっては 2 回目の大聖堂へ。今度は中に入れました。荘厳ではあるが落ち着いた雰囲気で、涼しかったので結構長いこと中にいました。炎天下の中、外で待ってくれていたガイドさんには申し訳ないと思っています。そして山の上にある大聖堂と周りの建物を巡りつつドナウ川の方へ下って行きました。遠くからは何度も見ていた国会議事堂に近づき、そのお

しゃれさに驚きました。ヨーロッパの石造りの建築を見ると、造形がダイナミックでかっこいいなと僕などは思います。

7 時ごろからブダペストの大きな会場で立食パーティー。ホテルでの食事の時もそうなのですが、ハンガリーでは気を抜くとすぐにウェイターに皿を取られてしまいます。いくら食べ物が乗っていてもおかまいなしで下げられてしまうので堪ったものではありません。腹がふくれるとドナウ川沿いのベンチや道路脇の塀の上に座ってインドの代表とずっと喋っていたり例の中国の代表とフラミンゴを歌ったりしました。話している間に日が沈んで川沿いの建物や橋がライトアップされていてとても綺麗でした。この時に持っていた法被をネパールの代表の服と交換してもらうなどしていました。

9 時半ごろにやっとバスが来て、ホテルに着いた頃には 12 時をまわっていました。疲れすぎてバスの中では全員爆睡。ガイドさんも次の日の予定を説明するときとても眠そうで、トーンが終始低かったです。

1 時ごろ就寝。

・ 8 日目

前日は寝るのが遅かったので 8 時ごろまで寝ていました。午前中はホテルに附設のプール(でかいスライダーや流れるプールもある)で遊ぶ予定で、椋木さんはブラジル代表から水着を借りていました。椋木さんのお父さんに激似らしい彼です。

プールはホテルに附設されているもので、かなり大きかったです。ただ、8 日目ともなるとだいぶ体力を消耗していたようで、昼食の時にはもうクタクタで眠りかけていました。

午後はホテルから 30 分くらいかかるショッピングモールに徒歩で向かい、40 分だけ買い物をして帰ってくるというコスパの悪いツアーに連れていかれて、お土産を買いました。声がかわいいイラクのイケメンと写真撮ったり一緒にまわったりしました。道行く少女から手を振られて椋木さんはめちゃくちゃにやけてました(なんでだろう)。

夕方にかけて閉会式と授賞式のため理論試験の会場に移動。式にふさわしい綺麗なホールに通されました。Jury にサプライズがあるよと言われて期待半分不安半分でした。閉会式は 1 時間遅れでスタート。IBO 委員長や Jury の先生のスピーチ(ポケベルを使ってハンガリー語で話すギャグをしていました)、ハンガリーの歌手の生演奏などがありつつ式は進んでいき、いよいよメダル授与、というところで何故か生徒のみ違う会場へ移動することになりました。予定にはないことです。着いてみると

どうやら夕食会場のよう。状況を把握しきれず勧められたままにとりあえず夕食を食べ始めましたがその間も何もアナウンスはありませんでした。しばらくして Jury からの連絡でどうやら成績確認やメダルの確定が遅れていることがわかってきました、これがサプライズだったらしいです(は?)。勘弁してくれ……と思いながら夕食を食べたり話したりしていると、だんだんと会場が盛り上がってきました。例によって中央にはダンス用のスペースがあり、そのうち皆踊り出してしまってダンスパーティが始まりました。みんなメダルとかどうでも良くなって踊り狂いました。

授賞式は遅れに遅れ、最終的に開始は 12 時をまわってから。踊ってテンションが上がってたときはどうでも良いと思っていましたが、いざ始まると緊張してきました。各メダル、順位の下の方から発表されていきます。銅メダルは人数が多く、僕たちは緊張から解放されたいがために早く呼んで欲しいと思う反面、もう少し先(つまり金、銀)で呼んで欲しいとも思って祈っていました。

結局、結果は僕と星野さんが銅、椋木さんと小野さんが銀でした。Jury の方は贅沢な悩みだよと励ましてくださいましたが、あと数位で銀だったことも含めて自分の結果が情けなかったです。また、なんと例の中国の代表が 1 位でした。お前そんな賢かったんかよ。会場に流れてるクイーンの We Are The Champions に乗せて I am the champion と歌っていましたが事実やったからなあ。

なんとなく気分が落ち込んでしまった僕と椋木さんが少し踊ってそれを払拭した後、2 時半ごろにやっと帰る流れになりました。次の日は朝早くに出発なのでガイドさんと会うのはもうここが最後となります。1 週間ずっと僕たちの傍にいていろいろと助けてくださったガイドさんに心からの感謝を申し上げ、熱いハグを交わしてお別れしました。他にも、もう会うことはないかもしれない他国の代表とお別れの挨拶を交わし、だいたいの人とはハグしました。みんないい人で本当に寂しかった。泣きそうでした。

ホテルに帰ると疲れ切ってぐったりしていましたが、荷造りを済ませなければならず、頑張って終わらせました。就寝 3 時半。

・ 9 日目

朝 6 時半起床。結局 3 時間ほどしか眠れませんでした。

ホテルからブダペストに向かうバスは 7 時きっかりに出ると言っていたくせに 1 時間遅れで出発しました。わざわざ早起きした上のこの仕打

ちに全員うんざりしていました。バスに2時間揺られている間、よく寝れたのはせめてもの救いでしたが。

復路も行きと大体同じ感じです。ただロシアから乗ったので機内食は想像を絶する不味さで、特に2食目のオートミールはゲ□としか思えませんでした。あまりにもひどすぎる。帰りは少々眠い目をこすって岡田准一主演の「散り椿」を鑑賞しました。あまり僕の感性とは合いませんでした。

日本に着くとすぐにでも家に帰りたい気分でしたが、昼ご飯のあと予定には文部科学省への表敬訪問がありました。タクシーで霞が関まで、とおっしゃったときの笹川先生は最高にキマっていました。文部科学省に着くと、座る位置など細かく決められた表敬訪問の段取りを詳細に説明されました。日本のこまごまとした感じを思い出させられ、なぜか懐かしい気分になりました。そのままどうやら無事に文部科学副大臣の長岡大臣と会って話をし、賞状を頂きました。記者の(よくわからない)質問にたどたどしく答えた後は、流れ解散という感じで各々自分の家へと帰って行きました。小野さんや星野さんとの別れ際があまりにサバサバしたものだったので、ハンガリーでのお別れと比べてなんか物足りないと椋木さんと話していました。椋木さんとも大阪で別れて僕は自分の家に帰り、思う存分眠りこけました。これでハンガリーへの旅はおしまいです。

7. あとがき

ここではハンガリー大会に参加した全体としての感想と、生オリで国際大会を目指す皆さんへのアドバイスを書いていきたいと思います。

今回の国際大会はもちろんめちゃめちゃ楽しかったです。外国の雰囲気を楽しみながら生物学の研鑽を積み、そして世界中の同年代の仲間と交流し語り合う。こんな機会にはもう恵まれないと思います。こんなチャンスをつかむことができて僕は幸運だったと思います。

ただ、僕はもっと英語が話せたらもっと楽しみの幅が広がったのではないかと思っています。英語力のせいで周りの人、特にガイドさんに苦労をかけてしまいました。英語が僕よりできる椋木さんや小野さん、南アフリカの代表の子がいなければもっと大変だったと容易に想像できます。それでも、みんなやさしいので僕らに合わせた英語で話をしてくれましたが、英語力がもっとあればさらに深い生物学の話などもできたでしょうし大会で話さなかった人とも話せたかもしれません。

これではハンガリーまで来て世界中の人と一緒にいる意味が薄れてしまいます。自分がどれだけ生物学の知識を蓄積しそれに対する深い考察を持っていたとしても、それを伝えられなければ意味がありません。そんな事態を防ぐためにも、国際大会に出たいと思っている人は人一倍英語を勉強するべきだと思います。これは生物学オリンピックに限った話ではなく、英語が話せないという理由だけで自分たちの価値を下げてしまうことは勿体ないことだと思います。ぜひ頑張ってください。僕はまず受験英語を頑張ります。

ここから僕や他の人の勉強法も記しておきます。何か参考になることがあれば嬉しいです。

まず予選は考察問題中心ですが、知識はあるに越したことはありません。本選で高得点を期待できない人(僕含め大部分の人はこれに当てはまります)は特に生物図説を読んで一通りの知識を得ておくべきでしょう。また過去問はここ数年の問題形式にあまり変化がないものを重点的に解くといいと思います。ここ数年は似た傾向の問題もよく出ているので過去問で演習を積むこともかなり大切になります。

本選で僕はいい点を取ったことがないのでアドバイスできることはないのですが、しいて言うなら過去問を見て実験のイメージを立てておくといいと思います。顕微鏡やマイクロピペットを使った練習や解剖等も可能ならばするべきです。僕や先輩が練習として解剖したものはイカ・貝・魚・カエル・ザリガニ・カイコの幼虫・コオロギ・セミなどです。また、すべてのテストに当てはまることですが最初に問題を全て見てから解き始めるべきです。そうすれば最後に電気泳動をするといった失敗もなくなるでしょう。

代表選抜試験は間違いなく最も難しい試験です。試験内容がキャンベル生物学に準拠しておりある程度パターン化した問題もあるので過去問演習とキャンベル生物学の読み込みが重要です。しかし、キャンベル生物学が曲者で、わかりやすく書かれてはいるのですが情報がまんべんなく散らばっていて、これを集めるだけでも大変です。先輩の中には知識を完璧にするために 7 周半も読んだ人もいました。僕は惰性で読んでしまいそうだったので自分で内容をノートにまとめそれを見直して勉強していました。ただ、知識だけでは試験は突破できません。生物学の用語や概念に関する問題も出題されることがあり、一つ一つの内容を深く理解する必要があります。そのために、わからないところがあったらキャ

ンベルだけに頼らず他の教材で調べてみることも大切です。東大などの過去問で記述力をつけることも方法の一つだと思います。

国際大会の実験試験は本選と傾向があまり変わらないので割愛します。正直日本大会の本選はかなり難しいです。国際大会の実験試験は求められるスキルがより実践的になると考えてください。理論試験はハンガリー大会のものが今までと違った形式だったので言えることは多くないのですが、一番大事なことはペース配分です。何回でも言いますが最初に全ての問題を見ましょう。例年通りなら一つの試験で 4 問 1 セットの正誤問題が 50 セット出ると思いますが、これが一番のクソゲーです。4 問正解で 1 点、3 問正解で 0.6 点、2 問正解で 0.2 点、1 問以下は 0 点となります。多くは独特の実験考察なのでもらえるだろう過去問をしっかり解きましょう。

さて、そろそろ終わりに近づいて参りましたがいかがだったでしょうか。楽しんで読んでいただけましたか？もし生物学オリンピックに少しでも興味を持っていただけたなら何よりの喜びです。拙い文章でしたが読んでいただいてありがとうございました‼